

中海・宍道湖・大山圏域観光

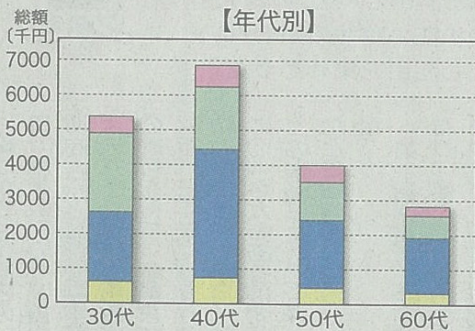
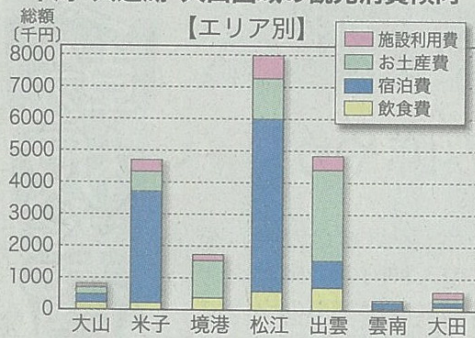
最大消費地 松江 年齢層は40歳代

中海・宍道湖・大山圏域の観光で、消費額が多い年齢層は30歳代と40歳代で、最大の消費地は松江地域一。同圏域を訪れた旅行者を対象に、松江高専の学生らが行った観光動態調査で、旅行者の消費傾向が浮かび上がった。島根、鳥取両県境をまたぐエリアの観光動態調査は珍しく、地域課題になっている観光消費増加に向けた施策のヒントになりそうだ。

高専生ら 動態調査 水木ロード振るわず

調査は、松江高専五年生の石田佳弘さんと加藤史人さんが卒業研究で企画し、復建調査設計松江支社や東京大と合同で実施した。回収率は15%

中海・宍道湖・大山圏域の観光消費傾向



調査は、松江高専五年生の石田佳弘さんと加藤史人さんが卒業研究で企画し、復建調査設計松江支社や東京大と合同で実施した。回収率は15%。回答者の54%が三十歳代と四十歳代で、60%が日帰り客と一泊客だった。年代別で、総消費額が多かったのは四十歳代の約六百九十万円と、三十歳代の約五百四十万円。三十、四十歳代で全体の56・8%を占め、家族旅行も多い子育て世代の消費の大きさが際立った。

ただ、一人当たりの消費額は、三十歳代が約八千五百円にとどまったのに対し、四十歳代から六十歳代は、いずれも二万円前後。高齢者も「有力顧客」となっている。一方、消費先を松江や出雲、安来・米子、境港、大山など九地域に分けると、総額が最も多いのは、玉造、松江しんじ湖西温泉がある松江地域の約八百万円。出雲大社があり、土産品の一大消費地となっている出雲地域が約四百八十万円で続いた。水木しげるロードが人気を集める境港地域は、約百七十万円と少なかった。

同圏域周辺では昨年十月、大田市から鳥取県湯梨浜町に至る二十三市町村を対象エリアに、観光消費増加を図る官民組織「山陰文化観光圏協議会」が始動している。松江高専などは施設別の消費額や滞在時間、移動手段の分析を進め、観光ルートや二次交通網の拡充に貢献したい考え。